

安倍支配を継続する岸田政権 「ハト派」の幻想振りまく

五十嵐 仁（法政大学名誉教授・法政大学大原社会問題研究所元所長）

〔以下のインタビュー記事は、『連合通信・隔日版』No.9686、
2021年10月14日付、に掲載されたものです。〕

〈五十嵐仁法政大学名誉教授に聞く〉上

安倍・菅の2代にわたる政権がコロナ対応への失政で退陣し、岸田政権が発足した。岸田文雄氏は、ハト派で保守本流と呼ばれる党内派閥「宏池会」の出身。説明責任を一切果たさなか

った前政権と比べて、清新で穏健な印象が持たれがちだ。五十嵐仁法政大学名誉教授は「安倍支配は継続」と指摘し、「ハト派の幻想で、アベスガ政治の本質を隠す役割を担っている」との見方を示す。

——岸田政権発足後、安倍晋三元首相との

距離感についてさまざまな見方が報じられています

五十嵐 メディアの評価が分かれるのは、外見と中身が異なるから。岸田政権は基本的にアベスガ政権の路線を継承している。安倍元首相の影響力がより強まった面さえある。ただ、表面的にはこれまでと同じようにはできないというジレンマを抱えている。

特に組閣から所信表明演説までは、アベスガ路線を引き継いでいるという本質を、見えにくくするためのコーティング（覆い隠す）作業が行われてきた。岸田氏自身、「保守本流」の宏池会出身でハト派・リベラルと見られていた人。そういう外見を利用する形で幻想を振りまいている。

菅政権は違った。菅前首相は「アベ政治の継承」を堂々と公言していた。岸田首相はそうはせず、「人の話をよく聴く」「成長だけではなく分配を」「新しい資本主義をめざす」などと言う。宏池会的な幻想を生みだそうという意図が表れている。

なぜ幻想が必要か。一つは、安倍政治が多くの問題を生み出してしまったからだ。説明しない、国会軽視など民主主義の破壊、批判に耳を傾けない、格差の拡大。岸田首相の主張は全て、安倍政治が生み出した問題の存在を暗に認めている。

二つ目は菅政権の失敗。コロナ対応、「政治とカネ」、公文書改ざんや日本学術会議の問題などを踏みたくないのだろう。結果、世論の批判が高まり、退陣に追い込まれた。その轍（てつ）

三つ目は、世論調査で明らかになったように、国民の多くがアベスガ政治を拒否していること。彼らの敷いた路線を「引き継がない方が良い」が多数だ。

これらの理由から、自民党は新政権でアベスガ政治の本質を覆い隠す作業が必要になったということだ。

「安倍背後霊内閣」

特に、党人事にその本質が表れている。甘利明幹事長、麻生太郎副総裁、安倍元首相の出身派閥である細田派の優遇など、「3A」が党人事を通じて党内を支配できる仕組みが出来上がった。

岸田首相が本気で政策転換をめざすなら、党政調会長の高市早苗氏はあり得ない。タカ派で

極右。私に言わせれば仮面をかぶった安倍晋三だ。その人物を、選挙公約をつくる政策責任者に据えるのは、政策転換の意思がないということ。安倍支配が今も隠然と続く「安倍背後霊内閣」だといえる。

閣僚人事も見栄えと滞貨一掃重視の「粉飾内閣」だ。組閣から選挙終了まで27日しかない。野党の要請を無視し、予算委員会を開かないので、答弁に立たせる必要もない。

仮に国会で多数派を維持すれば、選挙後には内閣改造がある。だから実際は仕事をする必要のない「看板だけ」の人たちを並べた。若手や入閣待機の古参・中堅議員。若手は外見をよくするための「食品サンプル」だ。おいしそうに見えるが、食べられない。

この点を見ても、総選挙で票をかすめ取るためだけのコーティングされた内閣だといえるだろう。(続く)

10月17日(日) 政権を変えるしかない 政策担当者として反省必要 「論攷」

〔以下のインタビュー記事は、『連合通信・隔日版』No.9686、2021年10月14日付、に掲載されたものです。2回に分けてアップさせていただきます。〕

〈五十嵐仁法政大学名誉教授に聞く〉下

——所信表明演説を見た感想は？

私は「3ない演説」だと言っている。一つ目が、コロナ失政やモリカケ桜の問題、経済政策への反省がない。「新しい資本主義」と言いながら、格差を拡大させた「アベノミクス」と同じことをやると言っている。二つ目が、これらの「負の遺産」を変える覚悟がない。三つ目は具体策がない。演説では岸田色を出そうとする意図がうかがえるが、地金は安倍カラーだった。

岸田色を出すのは簡単。「憲法9条を守る」と言えばいい。宏池会元会長だった古賀誠自民党元幹事長は「憲法9条は世界遺産」という本を出した。そこまでしろとは言わないが、「同感だ」くらい言えばいい。岸田氏自身6年前に「9条を変えない」と述べていたのだから。

森友学園問題の公文書偽造を再調査する、核兵器禁止条約にオブザーバー参加する、日本学術会議会員への任命を拒否された6人を再任命するといえは、さらに岸田色が出るはずだった。

だが、今の自民党ではそれは言えない。総裁選で高市早苗氏が河野太郎氏より多くの国会議員票を得るなんて、かつての自民党ではあり得なかった。自民党がいかに右傾化し、戦前帰属的な安倍カラーに染まっているかを良く示している。

改憲問題でいえば、岸田氏はポストを得るために魂を売った。安倍政権で政調会長に就任してから改憲の地方行脚を始め、総裁選では「任期中に改憲のめどをつける」と述べた。

今の政治を変える力は自民党から生まれてこないということが、総裁選と組閣人事で明らかになった。もはや腐りきった政権を丸ごと変えるしかない。

——岸田首相はコロナ対策の給付金の支給や、賃上げ促進を掲げています

選挙を乗り切るための「まき餌」だろう。岸田氏は安倍政権の下で政調会長を務めていた。政策担当の責任者だった時に、なぜそれをしなかったのか。給付金の拡充を求めている野党の要請を無視し続けていたではないか。

賃上げ促進も同じ。選挙向けの餌だ。所信表明では最低賃金に一言も触れなかった。その点では安倍以下だ。本気なら覚悟を示すべき。これまでの政策的な失敗についての反省がないと説得力もない。

安全保障についてはさらにひどい。総裁選では専守防衛の国是を踏みにじる「敵基地攻撃能力の保有」を主張していたし、米国からの「武器爆買い」も容認していた。軍事大国路線はそのまま維持する。どこがハト派か。「カーキ色」のハトに、幻想を抱いてはいけない。

安倍氏らを喜ばせるな

——野党共闘と連合の動きについてはどう見られていますか？

連合の新会長が、就任会見で野党共闘に水を差す発言をしていた。野党がまとまって「さあ政権をとるぞ」と意気を挙げようとしている時に、水をぶっかけているのだから困ったものだ。

女性で、中小企業労組であるJAMを基盤として抜てきされ、期待していただけに残念だ。民間大単産の顔色をうかがってポストを手に入れ、喝采を得たいための付度（そんたく）発言だったとすれば、岸田氏と同じ構図ではないか。

4月の3選挙、東京都議選、横浜市長選で連合は足を引っ張ったが、野党共闘の候補が勝利した。そんなことをしなければもっと容易に勝てたし、総選挙に向けても期待が高まっていただろう。

政治を私物化し、憲法と民主主義を踏みにじって来たアベスガ政権の前・元首相や、その周りで甘い汁を吸ってきた連中を喜ばせてはだめだ。今回の総選挙の基準はそこにある。少なくとも、それくらいの判断ができる見識が必要ではないか。（おわり）

安倍支配を継続する岸田政権 「ハト派」の幻想振りまく